

《担当者名》柳生 一自 (kyagyu@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

精神疾患に対する精神心理療法および薬物療法は車の両輪にも例えられる。薬物療法の効果による患者自身の微細な変化に気づけることで、精神心理療法もまた一層の効果を発揮することが多い。また薬物療法は効果の反面、副作用にも注意が必要である。副作用の中には精神症状と誤認されるものも少なくない。この科目では、薬物の作用、副作用や使用目的などについて基礎的な知識を習得することが期待される。

【学修目標】

薬物の生体内での動態と薬理作用を学ぶ。

生体内での情報伝達について説明できる。

代表的精神疾患について使用される薬物の作用と副作用の特徴を理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	向精神薬の薬理作用と薬物動態	一般的な向精神薬の作用機序、用量反応関係について学ぶ。生体における薬物の吸収、分布、代謝、排泄について学ぶ。	柳生 一自
2	情報伝達の機序 1	向精神薬の作用機序を理解するための神経生物学的基礎、具体的には以下の項目について学ぶ。 ニューロン、伝導と伝達、シナプス	柳生 一自
3	情報伝達の機序 2	向精神薬の作用機序を理解するための神経生物学的基礎、具体的には以下の項目について学ぶ。 神経伝達物質、アゴニスト・アンタゴニスト、受容体、細胞内シグナル伝達	柳生 一自
4	薬物依存	薬物嗜癖の神経生物学的機序、具体的には以下の項目について学ぶ。 耐性、退薬症候（離脱）、身体依存、精神依存、大麻・覚醒剤・アルコールなどの嗜癖薬物の作用機序と依存形成	柳生 一自
5	抗精神病薬	統合失調症に用いられる薬物を学ぶ。	柳生 一自
6	抗うつ薬、感情調整薬	うつ病、双極性障害に用いられる薬物を学ぶ。	柳生 一自
7	抗不安薬、睡眠薬	ベンゾジアゼピン系薬物などの抗不安薬、睡眠薬について学ぶ。	柳生 一自
8	抗認知症薬、抗てんかん薬	認知症、てんかんなどに用いられる薬物について学ぶ。	柳生 一自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%（マークシート式テスト）

【参考書】

『精神科の薬がわかる本 第4版』 姫井 昭男 著，2019，医学書院

『ストール精神薬理学エッセンシャルズ - 神経科学的基礎と応用 - 第5版』 仙波 純一他 訳，2023，メディカル・サイエンス・インターナショナル

【学修の準備】

1 授業回あたり2時間程度の自己学習時間を用意し、資料、参考書などを用いて予習・復習に取り組むこと。

【【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

医師・公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

医師としての実務経験を反映させた講義内容となっている。